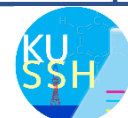




Beyond KUSS , 2024 !!



令和6年度大学入学者選抜実施要項

6月2日(金)、文部科学省高等教育長から「[令和6年度大学入学者選抜実施要項](#)」が通知されました。今回の特徴は、2020(令和2)年3月から続いていた新型コロナウイルス感染症対応が一部残るもの等を除き、それ以前の状態に戻すことを基本としている点です。今後どのように感染状況が推移するかわかりません。10回生の大学入試は、基本的に「コロナ」特別対応はなくなります。例えば、[共通テストの追試験会場は各都道府県に設置されていましたが、全国2か所に限定](#)されます。

この通知には大学入学者選抜に関わる様々な内容が含まれています。例えば、総合型選抜語学校推薦型選抜の日程は以下のとおりです。

総合型選抜 出願：9月1日以降 発表：11月1日以降

学校推薦型選抜 出願：11月1日以降 発表：12月1日以降

国立大学の入学者選抜の日程等は、[国立大学協会の定める実施要領](#)に基づき、公立大学は、[公立大学協会の定める実施要領](#)に基づき実施されます。

難関国立大学一般選抜の合否状況

No_9で、第2回進路希望調査の集計結果について紹介しました。神戸、大阪、京都、東京が志望者数の多い4校で、73%を占めます。関西圏には、有力国立総合大学3校があります。有力国立総合大学は歴史的経緯から、法学部と医学部医学科を含む文系・理系の多くの学部・研究科を有し、学部1年次の定員が2000名を超える大学です。

神戸、東京、京都、大阪以外に該当する国立大学は、北海道、東北、名古屋、九州、新潟、岡山、広島です。公立大学では、大阪市立大学と大阪府立大学が統合し設立された大阪公立大学が該当します(統合前は該当しませんでした)。国立10大学と公立1大学です。

関西圏では京都-大阪-神戸という風に難易度のイメージがありますが、実際はどうでしょうか。過去3年間の本校の一般選抜での合否状況を次ページに示しています。

神戸大学と大阪大学を比較すると、「K値」65での合格者は同数で、70以上では神戸大学合格者が多いです。65未満では神戸大学不合格者が圧倒的に多いです。65を境に大阪大学出願をあきらめて神戸大学に出願する傾向がありますが、残念ながら不合格です。本校のデータでは神戸大学と大阪大学の難易度はほぼ同じです。両大学の特徴をよく理解したうえで志望してください、必ず先生方に相談しましょう。

東京大学と京都大学を比較すると、「K値」75のゾーンで東京大学には合格者がいませんが、京都大学には多数います。これは東京大学の方が難しいともいえますが、サンプル数が少ないことが原因でしょう、75あたりの人が東京大学をたくさん受験すると、京都大学と同様の合否状況になることが予想できます。首都圏は有力国立総合大学が東京大学1校のみですから、本校での65以上の成績層の受験生が東京大学合格に向けて競争しています。関西圏では受験生や保護者自身が天井を設定してしまい、出願校を分散させていきます。首都圏に住んでいれば東京大学に進学する生徒が、関西圏では神戸、京都、大阪に分かれていく構造です。65レベル以上の人で東京大学や京都大学のことを意識している人は、チャレンジする価値はあります。先生方に相談しましょう。

受験は、成績にかかわらず「必ず合格」という保証はありません。その危険・恐怖を乗り越えることができるかどうかで、出願先・進学先は変わります。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS , 2024 !』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。

「K 値」を軸とした難関国立大学の合否状況

省略

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS, 2024!』など進路課が発信する情報の一部を HP に掲載しています。